

中田かわら版 4 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

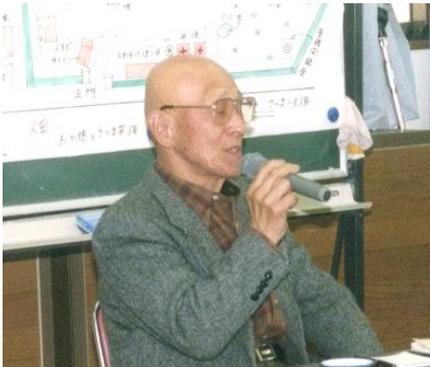
協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■郷土歴史家・小島貞雄氏の功績

小島さんとの出会い < 1 > 宮田貞夫作



「大戦前の泉区を語る」 H16.2.22

中田で郷土歴史家と言えば宮本忠直、小澤明夫、榛沢信義、大湖光雄 各氏らの名前が浮かぶ。小島貞雄さんの功績は中田のことを細かく書き残したことである。自らを農民（農業）と呼んでいるように、人の上に立って目立つ性格ではない。何よりも人一倍深い郷土愛から生まれる文章や俳諧（句）を残している。特に大正後期から昭和初期の風景画のスケッチは貴重な資料と言っている。

私が小島さんに最初にお目にかかったのは昭和 52 年（1977 年）中田連合自治会創立 10 周年記念誌を作ることになった時であった。中田に於いてはまだ駆け出しの私が初会合の「寿司長」（中下）へ呼ばれた。新聞社出身であったこと、記事のまとめ役（編集の全般作業）としてであった。

出席者の顔ぶれは錚々たる町の有志であった。宮本忠直、清水眞司、山口寅蔵、奥津喬雄、鈴木正太、福岡正夫、小島貞雄氏らである。思い出になるのは私が色紙にサインを依頼した時、全員が名前だけだったが小島さんだけが墓石を描き正面に庚申塔、側面に中田村。期日に昭和丁巳（ひのとみ）と書いてサインしてくれたことであった。庚申塔の上に書かれた記号のようなものは、今思うとキリーク（梵字）であり、丁巳は 52 を表している。小島さんらしい発想ですごく印象に残っている。以後、個人的な交流は泉区「歴史の会」などの会合でお会いしたが小島さん関連の記事は 4 回。①中田連合自治会 30 周年記念企画。座談会「東部分教場で学んだ子どもたち」（ふるさと中田 3 号）平成 9 年（1997 年）3 月 11 日②「小島民族資料館を訪ねて」（郷土いずみ 3 号）平成 9 年（1997 年）5 月③「この人に会いたい」 < 6 >（中田かわら版 58 号）平成 24 年（2012 年）3 月 22 日④追悼文「小島さん（87 歳）を悼む」（中田かわら版 88 号）平成 26 年（2014 年）9 月 25 日

上記「座談会」では小島さんの思い出がいっぱい詰まっている。文中のカット（当時の児童が使っていたズック靴、石板・石筆、机・椅子、カラン、カランの鐘、布カバン、火の見櫓や校庭の俯瞰図など記憶をたどりながら書いてもらったものだが、これも今では貴重なイラストになった。小島さんの記憶力にはいつも脱帽している。

次回は小島さんの作品を紹介したい。

■「中田むかしの話」<9>

「立場」の由来

元泉区歴史の会会長 宮本 忠直著

長後街道と「かまくら道」が交差する今はヨークマート、その前はスーパー立場、更に前は青木商店であったが、この店のことを通称「立場」と呼んでいた。

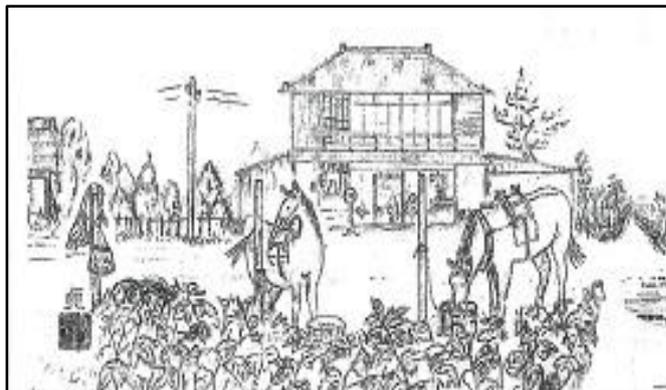
立場とはむかし背負子に荷物をつけて運んでいた頃、大休止ではなくほんの少し息を整えるとか肩を休めるために、背負子の下に杖をたてて荷物を背負ったまま小休止した、このことを「一本立てる」と言った。やがて休憩する決められた場所のことを「立場」というようになった。

ここを南北に通ずる「かまくら道」は、鎌倉北条時代に和田合戦で滅びた巴御前が木曾に落ちていく時に通った道と言う伝承がある。真っ直ぐな道の付けかたから確かに古道の面影がある。

一方、東西に通っている長後街道も古くからの道で、道筋は今の長後街道とは幾分異なるが、「戸塚道」とか、あるいは戸塚からの「大山道」としても使われたともいう。長後街道は明治35年（1902）にそれまでの道を拡幅したり付け替えたりの記事が始まり、11年の歳月を要して大正2年11月に厚木まで完成した。

街道筋の和泉、飯田、長後には製糸工場があったから、その工場に石炭を運ぶ荷馬車の人たちの休憩場所をかねて、中田の青木近右衛門が明治の中期に茶店を出した。「立場」はこの店の通称であった。古道の交差点だから昔からの休憩場所だったろう。通称の「立場」が地名になり、駅名にもなった。

（永らくご愛読いただきました「中田むかしの話」は終了と致します）



「立場」の原風景（小島貞雄氏絵）昭和十年代ごろ

<編集委員会だより>

このところ委員会ではいいことが続いています。小島敏子さんが法務大臣から感謝状（永年の県更生保護活動の功績で）、中田「中西クラブ」（田中進会長）が内閣府社会参加活動章を受章（老人クラブへの加入促進で多大な功績）。泉区社協のボランティア団体の交流紙「泉区ボランティアネットワーク通信」（中嶋光代代表、編集長・宮田貞夫）が神奈川県福祉協議会会長賞を受けました。

編集後記

早いもので今年も4月となり春を迎える。大きな災害や事故から始まった1年だが依然、訃報などが目に留まることが多く感じる。200号を迎えた「中田かわら版」では明るい地域の問題を発信していきたいと思う。中田には重たい話題に負けることのない素敵な人々や活動がたくさんあるのだから。 (嶋)

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本正

編集委員；山木重樹、小島敏子、田中進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋 宏之